

# ¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(030号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年01月09日 R & N

目次	更新日
<a href="#">身辺雑記</a>	2004年01月09日
<a href="#">Bar RyN</a>	2004年01月09日
<a href="#">買い物百般</a>	2004年01月09日
<a href="#">エクスカーション</a>	2004年01月09日

---

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。  
悪しからず。

---

## \* 身辺雑記 \*

\*\*\*\*\*

### 「東方の三賢人」の巻 2004年01月09日 更新

11月末から12月にかけて、しきりに寒い寒いと言ってきましたが、12月下旬に入ってからはずっと安定した天気になりました。こうなると気温もぐんと緩み、穏やかな暖かい日が続いています。漸くコスタ・デル・ソルの冬らしくなりました。

1月6日は日本語では公現祭などと訳されている **Dia de los Reyes Magos** ディア・デ・ロス・レイエス・マゴスというキリスト教の祝日です。その前夜5日の夜は大変です。この夜子供達は色々なプレゼントをもらえるらしく、それはどうやらクリスマスを凌ぐほどのようです。これがカトリックの国全般のものか、スペインだけがチョッと特別なのか知りませんが、テレビなどのはしゃぎようもクリスマスよりは一段とトーンが上がります。

5日夜は街の目抜き通りに楽隊や鼓笛隊、着飾った子供やセニョリータを乗せた数々のフロート、色々な衣装の騎馬や徒歩の行列等が繰り出します。駱駝に乗っているのが三賢人か？とにかく色とりどり、スペイン風あり、アラブ風あり様々な衣装です。

それぞれに意味があるのでしょうか私達には分かりません。

前にもお話したと思いますが、この行列の人々がそれぞれ大きな袋を持っていて沿道の見物人に向かって飴をばら撒いて行くのです。その数はもう大変なもので、この小さい町ですら飴を撒く人の数は5～60人は超えるでしょう。大きい町の大きい行列では何人がどれだけ撒くのか、スペイン全土では何トンの飴が撒かれるのか想像もつきません。正に「飴」あられ。ヨソのカトリック国でも同じことをするのか、カトリックでない国はどうか？ もしこれがスペインだけの事ならコリヤ飴屋の陰謀ですね。拾う方も毎年の事で慣れたもの、なかには傘を逆さに構えて空中キャッチをしている奴もいます。この夜、Rは暮からひいた風邪がすっきりしないので、おとなしくテレビで見物。一年分の飴を拾ってくるとN一人で袋をさげて張り切ってでかけました。イヌのフン拾うなよ。



これがその夜の収穫、張り切って出かけたワリには少ない。どうやら運悪く子供の群れにはまってしまって遠慮したようです。

ところでこの「東方の三賢人」(または三博士)の日がどういうことかは百科事典でも見ていただくとして、この賢人または博士と訳されている **Reyes Magos** の **mago** は英語の **magic**=魔法という言葉の元なのだそうです。何故なのかは宗教的な話になるのでハシヨリます。多分百科事典ではそれにも触れていると思います。

さて、子供達にとっては5日の夜が大きな楽しみですが、6日の公現祭が過ぎて7日になるのが多くの大人たちには楽しみです。なぜなら、この日から各商店は一斉にレバハス **rebajas**(大安売り、バーゲン・セール)になるからです。クリスマス・元旦・公現祭と続いた商戦も一段落、そろそろ冬物一掃大バーゲンというわけです。

この日、開店前のデパートの入り口は大変な人だかり、テレビ各局も繰り返しこの映像を流していました。でも、大安売りは衣料品中心なので私達は無関心。

\*

ところで、私達、ちょっとしたピンチに陥ってます。突然年金給付を止められてしまったのです。はっきりした事はこれからの調査を待つしかありませんが、2003年秋に現況届の用紙が配達されませんでした。更に年末の扶養親族等申告書も配達されませんでした。そして年が明けて銀行の入出金明細をみて12月半ば自動受け取りの年金が入っていない事が分かりました。死亡と認定されてしまったのでしょうか？今から考えると兆候は2002年暮私達がここへ来た直後にありました。その年の扶養親族等申告書がかなり遅く配達されたのです。そして「この郵便は一旦配達不能として返送されたので、再送する」と付箋がついていました。

ちなみに私達は姪夫婦の所で住民登録をさせてもらって、そこで納税、国保・介護保険料・Nの国民年金保険料納付等一切の手続きをしています。当然、社会保険庁にも現住所変更の届はしているし、だからこそ一旦は返送された上記の書類も再送されて最終的には変更後の住所に配達されたのです。高齢の方はご存知でしょうが年金給付

を扱うのは東京・杉並の社会保険業務センターです。

一方Nの国民年金保険の扱いは現住所管轄の社会保険事務所です。ここからの郵便物は滞りなく何度も配達されています。

しかし、Rのほうの住所変更届はどうなってしまったのか、一旦は正しい住所に配達されたものが、しかもその配達された申告書には再び正しい住所を記入して提出してあるのに、いつのまにか死んだ事にされてしまったんじゃないたまりません。業務センター何やっとなかいなー。お役所だけとは言いません、多くの大きすぎる組織で起こりがちな右手のやっている事を左手はシラン、が原因でしょう。さて、この結末やいかに。国民としての義務履行と手続きにぬかりはナシ。姪の奮闘に頼るばかりです。

\*

ところで、この場合の問題は郵便局ではなく発送する方の問題でしたが、今住んでいる所は郵便局そのものが大いに問題アリです。

例えば今日、1月7日に配達されたもの、合計5通。うち日本からのもの3通、発送日はそれぞれ12月17日、24日、30日。ところが15日に出してくださったというAサンのは着いてません。

又、あと2通のうち1通はイギリス発1月2日、もう一通はカディス(国内・隣県)発12月24日。更に言えばもう1通同じく隣県のコルドバから同じ12月24日に発送されたものは12月29日に配達されています。

どうですか？ デタラメでしょう？ 全くこれにはマイリます。今までに着かなかった小荷物が三つ。これは送った事がはっきりしているから着かなかったこともはっきり分かるんですが、その他に知らぬまま行方不明になってしまった手紙がどのくらいあるのか分かりません。私達への通信はどうぞメールを御利用ください。

前にも言ったと思いますが、この件は郵便局だけを責めるわけにもいかない事情もあります。それは流動人口がまことに多いということ、一年どころか数ヶ月単位で引っ

越す人が実に多いのです。しかも転送の手続きなどしないで突然いなくなりますから配達人も困るわけです。同じ部屋でもいつのまにか住人が変わっていることもシバシバです。私達の部屋に警察からの呼び出し状が入っていた事はいつかお話ししましたね。パスポートと部屋の賃貸契約書持参で出頭して、現在あの部屋に住んでいるのは我々で、呼び出し状の宛名の人物とは何の関係もない、とかなり意気込んで言ったのですが、係官は、アッ、ソー、で終わりですからね。警察がこんな調子ですから、郵便局がどんな業務状態か、推して知るべしでしょう。外国人宛ての郵便なんて何日も溜め込んでから配達しているに違いありません。その間になくなってしまふものがあったても何の不思議もありません。こんな事も早くカディスへ行きたい理由の一つです。

\*

さて、気分の良くない話を続けてしまいました。セイセイと冬空でもご覧下さい。ここでは飛行機雲を良く見ます。上空の空気が冷たく澄みきっているんでしょうね。



左へ。 右へ。



朝焼け。 夕焼け。



いっぽん。



(あひる? くじら?)

にほん。



さんぽん。

よんほん。

長いあいだ忘れてましたが、子供の頃は飛行機雲をよく見たような気がします。  
 さて、来週はイギリスから以前娘がお世話になったあの Too much decoration! の  
 老婦人がお客様です。一緒にグラナダ行き。冬のアルハンブラと雪のシエラ・ネバダ  
 を見る約束をしています。デ、休刊とさせていただきます。私達でも装飾過剰と思うグラ  
 ナダのカテドラル、彼女がなんとノタマウか楽しみです。



(年金停止事件・後日譚) 1月9日昼

姪の尽力で思いがけなく早い解決に至りましたので報告しておきます。事の経緯は先  
のとおりです。この窮状を姪に訴えた所、早速彼女が奔ってくれました。

彼女の長所の一つ、レスポンスの速さと行動力が遺憾なく発揮された一幕でありまし  
た。Jちゃん、ホントニ有り難う。

先ず彼女は、社会保険業務センターの幾つかの部署、社会保険事務所などアチコチ関  
係先に電話しまくったようです。しまくった、と言うのは彼女の意志ではなくしまく  
らざるを得ないほどアチコチにたらいまわしされたんですね。お役人様が自分達の落  
ち度を認めたくないとき、または、何か決定を迫られた時にとる常套手段です。

とにかく、問題を解決するためには具体的にどういう手続きが必要かを聞き出す為  
に彼女の電話は多分一日中ふさがっていたことでしょう。あっちで聞け、こっちで聞け  
と言われるたびに其処の電話はふさがっていて通じなかったのでしょうか。多分同じよ  
うな問い合わせまたは抗議が殺到して電話はふさがりし、応対する方も人間ですから  
多分段々無愛想になってくる。次にかけて人はしょっぱなから不愉快ですね。こうな  
るともう悪循環です。最終的に彼女が得た回答は、「本人からの委任状をファックス  
で取り寄せて、最寄の社会保険事務所へ出頭の上住所変更届をしろ」ということでした。  
早速、当方から委任状を彼女宛ファックスしました。

次の朝、彼女が社会保険事務所に出頭すると、クダンの委任状も彼女の身分証明も見  
ずに住所変更手続きはアッサリ済み、私達の年金は「メデタク」復活する事となった  
のです。

もう皆さんも大体何が起こったか、お分かりでしょうが、明らかに業務センターでは  
私達の新住所をコンピューターにインプットした時ミスったのです。大元ではすぐに  
それに気づいたに違いありません。窓口にはその事は知らされたのでしょうか。但し絶  
対謝るんじゃないぞ、という厳命と共に。だから委任状も姪の身分証明書も見ようと  
さえしなかった、見る必要もなかったのです、多分変更届さえも。とにかく一件落  
着。そして得た教訓ひとつ、役所に出す届はどんな小さなものでもコピーを取ってお  
く事。おカミに、お前が悪いと言われて反論するのは容易ではありません。\*\*\*

\*\*\*\*\*

## \* B a r R y N \*

\*\*\*\*\*

### 「バラ・ソーハ・インテグラル」の巻 2004年01月09日更新

「スペインのパンはまずい」何かでそう読んだ記憶があります。多分雑誌の紹介記事だったのでしょうが半分当たっていません。スペインのバルでは大概パンは無料ですからこれは期待できなくても仕方ないですね。でも只にも拘わらずいいのを出す店もあります。焼いて売っているパン屋でも大手のチェーンは半焼きと言うか白焼き状態で工場から配達されたのを焼きなおすので、ダメ。各スーパーも大抵同じ。

だけど、スペインにも旨いパンはあるんだよ、というのがきょうのテーマです。

バラ **barra** とは、棒・酒場のカウンター・法廷の仕切り柵・河口の砂州、など英語の **bar** に相当する名詞で、この場合は棒状のパン、という意味です。55銭。半個を二人で十分。二番目のソーハ **soja** は英語の **soyabean** で大豆。大豆入りパン。40銭。二人で一個。最後のインテグラル **integral** はこれも英語の **integral** と同じ意味で、完全な・不可欠な・積分の、というような形容詞。だからこれは全粒粉のパンです。

70銭。これも半個を二人で。結局ソーハが一番高いという事になります。

今日の単語は偶然にも全てスペルも意味も英語に極めて近いものが揃いましたね。全

てがこうだと助かるんですがなかなかソーハいきません。

ウチで買いに行くときはこの項の題とは反対の順序、まずインテグラル **integral** を、なければソーハ **soja** それもなければバラ **barra** という具合です。なぜインテグラルからかというと、作る量が少ないのでこれが一番早く売り切れて、なかなか買えるチャンスがないんです。ソーハもなかなか買えません。バラは店が開いている限り大

抵はありますが、それすら売り切れという事もたまにはあります。

そんなに売り切れるほど売れるんなら、もっと大量に作ればいいのに、と思うでしょう？ ところがどうしてそんな簡単なことではありません。先ず店が小さい、従業員が少ない、ということもありますが、オヤジがなんとも頑固そうです。チョッと苦み

ばしったイイ男ですが、目の鋭い、頑として説を曲げないという面構え。





これがバラ。ごく普通の、というか、日本でフランスパンと呼ばれているものに最も近いですが、バゲット **baguette** という細長いものに較べると短くて太いです。ここではバゲットのように細くて長いものは **barrita** バリータと叫んでいるようです。

形はその日の出来によってマチマチですが長さは35～40センチ、真中の太い所で両手の親指・人差し指で作った輪ぐらいです。重量はきちっと量るんでしょうが形は誰が作るかでも違うし、その日の気分もあるんでしょう。勿論、醗酵の具合も・・・。

この店はウチから500メートルぐらいの所にあり、其処まで行くくらいならパンを売っている所はもっと近いところに少なくとも10軒はあるし、焼いて売っている所も一番近いのは4～50メートルのところにあります。でも、何がなんでもパンはここと決めました。たまには不出来な時もありますが、だからこそ、ウン、今日は上出

来だ、という楽しみもあろうというもの。

従業員は先ほどのオヤジとオカミさん、それに息子の三人だけ。オカミさんも、オヤジには決して負けないよ、という風な一見コワおばさんですが、実は愛想ヨシ。息子はコワモテ風両親とは全く似ないノーテンキ。見るからに気のいいアンちゃん。

オヤジだって頑固そうではあるけれど誠実そうで、ダカラ結局三人共とても感じがいいんです。なんぼパンが旨くても買いに行くたびに腹が立ったんじゃ困ります。

このバラはごく普通のパン、ごく軽い塩味だけのパン。毎日三度三度食べ続けても飽きのこないパン。いわば白いご飯です。勿論売れ筋一番。作る量も一番。これだけは店をあげている間次々に焼きたてを出せるように仕込んでいます。

一番単純で、しかもこれが一番難しいんじゃないでしょうか。私たちは毎日買いに行くわけではありませんが、それでも日によって出来・不出来があることに気がつきません。この店の常連客は殆どが近所のスペインの人達みたいです。



二番手はソーハ。大豆をこんがり炒って、細かく砕いたものを混ぜてあります。焼きたてのホカホカなら勿論、冷めても香ばしい、いい匂いで、バターなどなくても美味しく食べられます。日本にもあるのですが私たちはここへ来るまで食べた事ありませんでした。かなり硬いですが噛みしめると香ばしさが口に広がります。

最後はご存知、全粒粉のパン。これは日本にいた時から随分食べましたが、そのどれよりもこのパン屋のが気に入りました。これも歯が心配になるほど硬いです。私達はなるべくバターもマーガリンも使わないようにしています。それにはこのパン屋のこの三種はもってこいで、何もナシでOK。エイ少し位ならと言う時は旨いアイリッシュ・バター。毒食わば皿までという気分ときは **crema de queso azul** クレマ・デ・ケソ・アスール(ブルー・チーズ・ペースト)。コパー杯の赤で文句ナシ。\*\*\*



\*\*\*\*\*

## \* 買い物百般 \*

\*\*\*\*\*

### 「文房具の値段」の巻 2004年01月09日 更新

食材全般が日本より安めの中で、文房具には割高感があります。例のトドというスペイン版百均ショップにも安い文房具はありますが、ほんとの安物だけですから肝心のとき役に立たないものが多いのです。

日本ならPC関連のもの、例えばプリンターのインクとかコピー・ペーパーなどを買うのに文房具屋へ行く人はあまりいませんね。コンピューター関連機器専門または電気製品一般の大型量販店に行けばこんなものはいくらでもあるし、価格も各店競争で安売りしてますから選り取り見取りです。

ところがここではこういう大型量販店が皆無です。大きい店と言えばスーパー各店とマラガに一軒だけあるデパートです。スーパーの文房具は小学生が使う程度のものだけだし、デパートでは値段が一段と高いのは何処でも同じです。

この他はもう個人商店しかないのです。大小の差はありますが少々大きくても個人商店の価格設定は殆どが所謂メーカー希望小売価格です。PCショップは特に小さくて展示してあるPCもせいぜい5~6点しかない所が多く、当然関連商品の数も限られていて選択の余地がないどころか、欲しいものが揃っていない事が殆どです。

こんな事でみんなどうしているんだろうと不思議です。多分こういうものが欲しいと行って取り寄せて貰うしかないんでしょうね。不便な話です。結局PCの普及度もマイチなんでしょう。だから街にはインターネット・カフェが沢山あって大人も子供も大勢詰め掛けています。また、PC教室もアチコチにあってこれも盛況です。

このマーケットここではまだこれからが本番なんでしょう。個人経営の小さいPCショップなんて日本にはあるでしょうか？ 見たことも聞いた事ありません。

食材主体で衣料品売り場もあるという郊外型大規模店はありますが、これはあくまでスーパーです。どの分野でも殆どが個人商店で規模もごく小さく、商品点数も当然少ないし、こんな店でやっていけるのかと要らぬ心配をしたくなる程です。



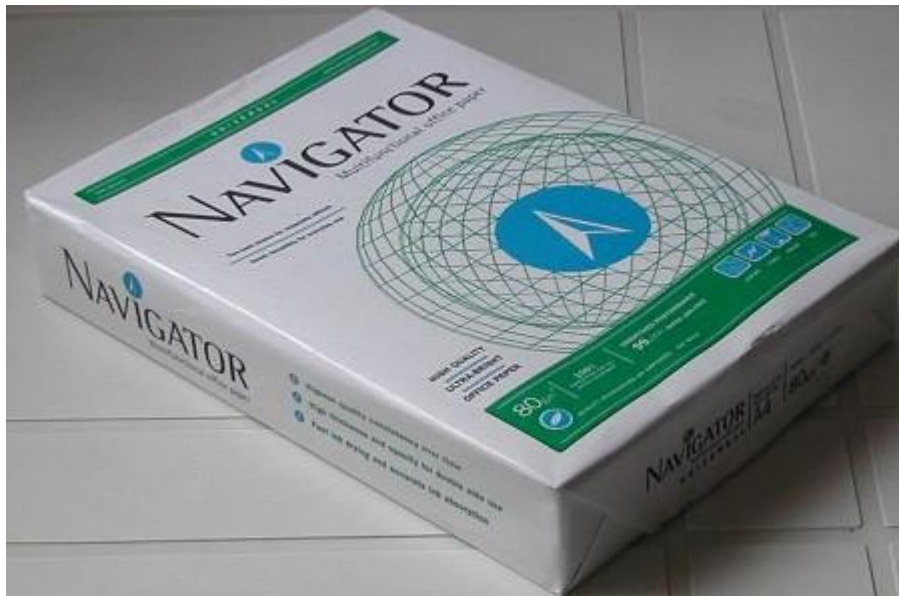
これはプリンター・インク。ウチのPC関連消耗品では一番の金食い虫。左はキャノン純正品でインク・タンク2個入り28ユーロ、3千7～8百円。右は国籍不明の海賊版、1個入りで9ユーロ、約1千2百円。純正品の3割ほどですが、プリントの色合いも半値以下。純正品が品切れだった時薦められて一回だけ買ってみましたが、それっきり。もう二度と買う気になれません。

このBCI-24という製品、日本ではいくらぐらいで売っているのでしょうか。PCショップにでも行く用があったらちょっと見てみて下さい。まさかこんな値段ではない筈ですね。輸入品だから仕方がないといえば仕方がないのですが、プリンター本体だってキャノン製品でスペイン製でない点はインクと同じで、税率も同じです。それなのに本体の値段は税込み85ユーロ、約1万1千5百円。インクに較べると本体は安いと思いませんか？ これはキャノン i320 (日本では多分320i) という機種でアイルランド製ですが、日本での実勢価格はどんなものでしょうか。

ここへ来る前に得ていた情報では、スペインは電気製品が高い、特にPC関連機器が高い、と聞いていましたが、必ずしもソウではありません。

ここへ来てから買った家電製品は電子レンジ、オイル・ヒーター、掃除機などですがいずれも割高感はありませんでした。買った店が、さっきから言っているような個人商店なので機種選択の幅が小さい事が最大の難点でした。





次にこのコピー・ペーパー。これも殆ど選択の余地ナシ。これともう一つ **Discovery** という銘柄だけ。どの店でもこのどちらかしか置いてません。まさか全スペインで二社しかないとは思えませんが、私達の行動範囲ではこの二つだけ。

1平米80グラムという厚さの物で500枚5.25ユーロ、710円。

1平米120グラムのものが250枚4.65ユーロ、630円です。

シカとした記憶ではありませんが、日本では、これよりやや薄いものではありましたが、500枚300円位迄だったような気がします。98円なんてのもあった！

先ほどから言っているようにPCショップはごく小さいものが殆どで、品揃えが十分ではありませんから少し大きめの文具店に行ったほうが手っ取り早いんです。

個人商店と何回も言いましたが、そのなかにフランチャイズ・チェーンの店はかなりあります。けれども結局店構えが小さいのが致命傷で、フランチャイズ・チェーンの良さも生かしきれないのでしょうね。注文して待つ気長さがあればこういう店なら大抵のものが取り寄せることは可能でしょう。でも、手にとって見て、決めるという事は出来ません。

今日はこまごまと、チマチマと値段の話をしましたが、この他割高感のあるものは、書籍類、地図などの印刷物。これは割高と言うより不足と言ったほうが当たっているかもしれません。出版物の数が全く少ないと思います。特に地図はデタラメ。反対に割安感または満足感のあるものの筆頭はビノと格安ツアー。私達にはこれで十分。\*\*

\*\*\*\*\*

## \*エクスカーション\*

\*\*\*\*\*

「カナリア諸島」の巻・その七 2004年01月09日 更新

\*\*\*\*\*

### (七日目 プエルト・デ・ラ・クルース)

プエルト・デ・ラ・クルースは温泉こそありませんが、日本にも良くある山が海に迫った保養地です。関東なら熱海・伊東、関西なら白浜といったところ。子連れの家族には遊園地もあるし、真冬以外は海岸で甲羅干しもよし、プール・ガーデンみたいな泳ぐ所はいくらでもあるし、カジノもあるといった具合。今日はこの町をノンビリと一日散歩です。

まず、公設市場に行ってみようと歩き始めました。こういうところが普通の観光客と私達の違うところかも知れません。「マズ、市場」ですからね。私達はどの街へ行っても大抵市場を見て回ります。どんな食材を売っているかが興味のホネです。

珍しいもので日持ちのするものならば少々荷物になっても持って帰りたい。この日は残念な事に日曜で、市場内の殆どの店が閉まっていた。シマッタ、昨日と今日を逆にすればよかった。どうも旅先では曜日の感覚が鈍くなってしまっていていけません。

特に魚屋は全部店が閉まっていてダメでした。もっとも魚に関しては、この島は南過ぎてあんまり期待していなかったのです。魚がうまいのは、やはり北の、少し気候が厳しい所、例えばガリシアのような、または日本海側のようなところでしょう。それ

に魚はどんないいものがあったとしても買って帰るわけには行かないのが泣き所。

この日あいていた店は衣料品店が中心。後は雑貨屋と八百屋がポツポツ。日本でもそうだったのですが、衣料品は全く私達の興味の外です。こっちへ来てまだ衣料品店で買物をしたことがありません。もうコレで見るところはキマリですね。八百屋・果物

屋しかありません。市場内全部の八百屋をみて歩きました。

真っ先に目に止まったのが次の左の小粒ジャガイモ。ぱっと見たときには思わず笑っちゃいました。だってこれアカンボが大勢ニコニコ笑っているように見えたんです。





写真にしてしまうとナーンだということになりますが、現物を見たときには二人とも期せずして同じように感じました。でもこのイモの名前はなぜかパパと言うんです。コレを塩蒸しにして、例の私達がガスパッチョと間違えた辛いソース、モホ **mojo** をつけて食べます。値札に **Papas Negras Nuevas** パパス・ネグラス・ヌエバス(新ジャガ黒いパパ)となっていますが、コレどう見ても **Nuebas** に見えませんか？

こんなスペルは私たちの辞書にはありません **Nuevas** の書き間違いなんでしょうね。英語と違ってスペイン語ではVもBも発音は同じですから英語国なら起きそうもないこういうミス・スペリングがありうるのでしょうか。こういうのを見ると嬉しくなります。ここでは「ビ」タミンと言ったって通用するんです。外国人の片言に対して一番非寛容なのは英語国のような気がしてなりません。英語がほぼ世界語になってしまったためのオゴリか？ それは単なるヒガミか？ とにかくスペイン語圏では私達の出鱈目な片言もよく聞き取ってくれます。ローマ字読みでいいんです。ヴァイタミンと言わないとビタミン剤一つ買えないなんてことはありません。

ところでこのジャガイモ、なんで黒くなるのでしょうか。全部がそうなら、そういう種類で不思議はありませんが写真でもわかる通り普通の薄い色のもあります。わざわざネグラ（黒い）と表示するのは何か理由があつてのことでしょう。サイズは右の普通のジャガイモと同じようなのも混じってますが、大部分が小粒です。



次に目に止まったのがこの大きなマンゴー。後ろに隠れているのはこれに較べると小ぶりに見えますが、コレでも日本でよく見かけるメキシコのものより大きいんです。コレには思わず手が出ました。こんな大きいのは昔よく運んだジャマイカ産のものしか知りません。柿は前もお見せしましたね、富有柿と殆ど似たような味と食感です。市場の隣は市警察の建物でしたがコレがなんとも警察らしからぬ建物でした。大きな国旗と一階の窓の鉄格子がなかったら洒落たピソ(アパルタ)とも思えるほどです。何故でしょう？ 白塗りの警察の建物はスペインでは全く普通ですがこの建物が警察らしからぬ主な理由はバルコニーではないでしょうか。木造ニス塗りのバルコニー付き警察なんてスペインにだってそんなにあるわけはありません。POLICIA (警察)という字もそれと知らなければ見過ごしてしまうほど小さく目立ちません。





市場を出てぶらぶら歩いているとチョッと開けた所へ出ました。するとテイデが思いがけなく間近に見えました。なんと頂上付近はうっすらと雪化粧です。きのう見たときはありませんでしたから、昨夜のうちに降ったのでしょう。多分今年の初雪です。これを見て思い出すのはやっぱり富士山です。山岳信仰というものがある理由がわかるような気がします。言葉による説法よりもストレートに胸をうちます。

このあとまた、2日目にも行った丘の上の公園へ行ってみました。公園ですから色々な花が咲いているのは当然ですが、南国の花ブーゲンビリアが咲きこぼれている隣にクリスマスの木ポインセチアが真っ赤に色づいているのは不思議な気がしました。







さっきまで上天気、テイデもよく見えていたのに又怪しくなってきました。全く傘ナシでは何処へもいけません。これが丘の公園から見た街の様子。中央海際はプール・ガーデン。一年中泳げると言うのがウリのようです。私達の定宿は下の写真中央でほかのビルの陰になってココからは見えません。

ところでポインセチアですが、私達はこれまで鉢植えのものしか見たことがありませんでしたがココでは公園内では露地に植えられていました。道路わきなんかにも自生していて、みんな身の丈以上、大きいのは3メートルを超しそうなものもあります。広辞苑によると、この木はメキシコ原産だそうですが、この島にはどこに行っても自生していました。日本でも沖縄などでは大きいものがあるようで、それならブーゲンビリアとの共生は不思議でも何でもありませんね。





さて、コミダ(昼食)とシェスタの後、今度は海岸と町歩き。

上二枚はさっき丘の上から見たプール・ガーデン。いくら一年中といっても11月末でこんな強い風のある日はご覧の通り、殆ど開店休業。そりゃそうですね、誰だつて高い入場料払って寒い思いをしには行きません。

それでも下の二枚、トスカからみてプールとは反対側の海岸へ行くとチラホラとハダカンボ。何しろこっちの浜はビーチ・チェア以外は無料ですからね。でも風に吹かれてさすがにチョッと寒そうでした。

砂は昨日行った島の南側の浜とは全く違い、色は黒、粒も荒く、小石混じりです。全く溶岩そのもの。こうやって写真でみても昨日の浜とは随分感じが違うでしょう？この両者、直線距離では30キロと離れていないんです。天気は昨日も今日も晴れたり曇ったりですが北側の方が日照は断然少ないでしょう。決定的な違いは海から直接吹き寄せる北風と日差しを後ろから、山側から受ける事。昨日の浜は山を後ろに背負い北風は遮ってくれるし、前の海からの日差しが海面に反射して丁度陽だまりを作るようなもの。雨も殆ど島の北側斜面で降ってしまい南側はカラカラ。

こんな小さな島でもこれだけ違うんだから冬の日本海側と太平洋岸の違いは大きいとつくづく思います。





上二枚はトスカからプール・ガーデン方面への海岸遊歩道。海水浴が出来る時期はこの辺もゴッタ返すんでしょう。私たちはいい時期に旅しました。これだから格安シーズンの旅はやめられません。

カナリー椰子と言うぐらいですからやはり椰子の木は多く、町のいたるところに様々な種類の椰子が植えてあります。パルマとは椰子のことですがそのまま La Palma ラ・パルマとか **Las Palmas** ラス・パルマスのように島名や都市名にもなっています。コスタ・デル・ソルにも椰子は結構植えられていますが、やはり椰子並木はこの島にこそお似合いです。公園や広場の一角、街路樹、プロムナードにもこのとおり。







街を歩いてすぐ気がついたことはさっき警察署で見た木製ニス塗りのバルコニーがアチコチにあることです。バルコニーだけを見ていると一瞬日本のどこかの温泉場に来たような、温泉旅館の二階を見上げているような気分でした。

そう思ってよく見ると町じゅうホテルもアパルタも公共の建物もバルコニーだらけです。どうやら、これはこの島の伝統的な建築様式なんですね。

天気もイヨイヨ怪しくなってきたし、海岸に打ち寄せる波も少し陰しさを増した感じ  
です。シャワーでもかぶって早めの食前酒とします。トスカへ戻るとフロントのセニョリータが明日の帰りの便の確認をしてくれていました。送迎バスは宿の前でピックアップしてくれるとのこと。こういう点が自由旅行にはない便利さです。

ふと、フロントの前の壁に右下の写真があるのに気がつきました。トスカが出来る前から30年前の写真です。その頃はまだココも「鄙びた漁村」だったんですね。それでも山の上には既にカジノがあるし左隅には大きなホテルも出来ています。トスカは前面左手の建物の場所、右手の建物も現在はトスカと全く同業で共に建て替わっています。よく見るとこの二軒の古い建物にもやっぱりバルコニーはありました。\*\*\*



\*\*\*\*\*

## (八日目 北へ帰る日)

さて、今日はいよいよテネリフェともおわかれです。チェックアウトは正午、空港までの送迎バスが来るのは15時とのこと。しかしチェックアウト後も14時からの昼食は付いているんです。何しろPCペンション・コンプレータですからね。ココにいる限り「アゴアシ」付です。要するに部屋さえ空ければ宿の中どこにしようと勝手だし食べるのも自由。とりあえず早めにチェックアウトして、荷物は預かってもらって町に出ました。実はこの旅行で私達は或る目的を持っていました。Rが現役だった頃の知り合いの日本人の消息を尋ねるということです。

その人はグラン・カナリアのラス・パルマスで長い間「船食」業（船舶食料納入業）をやっていた人で、Rとは商売上の付き合いを越えて意気投合していました。彼は青森県津軽地方の出身というだけで、詳しい身の上を知っているわけではありません。彼との商売上の付き合いは飛び飛びでは有りますがかれこれ10年ぐらいにはなっていたでしょう。その間には彼が日本に里帰りした時、Nも交えて一緒に愉快地飲んだり、Rの船がラスに入港しなくてもたまの電話のやり取りなどが続いていました。年令はNと同じ位でしょうか。

ところが2年前Rがまだ最後の船に乗っていたとき、留守宅に電話がありました。Nは、そのときの様子が、いつまでも気になって仕方がない沈んだ様子だったということです。その後色々な手段で連絡をとろうとしたのですが、ことごとく不調でした。ここへ引っ越してから、すぐに又電話をしてみました。全く知らないスペイン人が出て話になりませんでした。カナリアへの旅でぜひ何らかの事実を突き止めたいと思っていました。彼の自宅の電話は2年前からダメでしたから、その他の日本企業に聞いてみようと思いました。狭いラス・パルマスの日本人社会で、しかも日本食材も扱っていた人なので日本人なら誰でも知っている人物だからです。

ところが何処へかけても出てくるのはスペイン人だけで、日本人はいない、と言うんです。社名も日本企業ではなくなっています。仕方なく領事館に電話しました。事情をかいつまんで説明し、消息が分かっていたら教えて欲しい、と頼みました。領事館員は、個人情報だから一応家族の了解を得るまで待て、と言う返事。もっともな事な

ので、2時間後と言う約束を取り付けて、一旦電話をきりましたが、本人の、でなく  
家族の、と言われた事でもう返事を聞いたも同然でした。

2時間後に領事館員から知らされたことはやはり心配していたとおりでした。彼は既に去年の8月に亡くなっていたのです。スペイン人の奥さんは、時々私達のように消息を訪ねてくる船の人がいても日本語で説明が出来ないので申し訳なく思っているとのことでした。以前からうすうす案じていたとおりの結果になってしまって、なんともいえない気持です。こうして私達もスペインに移住したので、彼が元気でいてくれたら、又違った形で楽しくお付き合いが出来たのに、本当にガッカリしました。自分よりずっと若い人が・・・というのは特にこたえます。

なお、Rが電話した日本企業は全てラス・パルマスから撤退していると言う事も聞きました。日本船員は来なくなり、ラスでの日本船相手の商売もみな死んだのです。

\*

15時半頃、スペインではきわめて当たり前の遅れ方でバスがきました。乗っている人たちはここへ着いたとき見た顔が殆どです。殆どの人は私達と同じようなスケジュールで来ているんですね。違うのは宿泊先のグレードだけ。

18時15分出発で空港は混んでいる時間帯だろうと思っていたら、拍子抜けする程すいていました。これも格安オフ・シーズンのご利益。それでも飛行機はほぼ満席だからこそ格安料金の設定が出来るのでしょう。航空会社と乗客の持ちつ持たれつ。それにしてもこの旅行中ついに日本人らしい姿を見かけることはありませんでした。日本から欧州まででも遠いのに、そこから更に離島のカナリアまで足を伸ばすと言う人はまあ少ないでしょうね。欧州駐在の人が休日を過ごしにと言う事はあり得るでしょうが、もっとほかに呼び物が多い所も沢山あるし、なんと言ってもここはジミ偏。飛び立ってじきに辺りも暗くなり、カサブランカ上空では夜景が綺麗に見えました。

21時30分定刻どおりマラガ着。なんとなんとマラガは土砂降り。例の腹の立つ空港駅まで歩く間にもう濡れ鼠。皆さんも長いテネリフェの旅おつかれさまでした。行った先が保養地と言う事もあって、今回の旅は些か盛り上がりには欠けましたね。

まあ、NHK程の取材費は使えなかったからと言い訳しておきましょう。\*\*\*

\*\*\*\*\*